



1



3



2



1 南と西は山、東と北は衣川の支流で区切られた山の麓にある館跡 2 県道37号から市道に入り、衣川を越えて南へ進むと案内板が見える 3 石柱は昭和13年に建てられた鳥居の柱。刻まれた文章から、ここが月山神社などの参道だったことや国有林からの払い下げ木材の運搬道だったことが読み取れる

Oshu Heritage
奥州遺産
ときを越え
受け継がれるもの
館跡(山口館)
No.71

II 衣川区山口 II

衣里小学校から衣川を挟み南に約1・3km、東北自動車道の側道を通り緩やかな坂を上ると、丘陵の水田地帯の中に館跡が見える。
近くに琵琶柵や小松柵、衣河柵などと伝わる場所があり、安倍氏の要衝の地であったことがうかがえる。平安時代中期に奥六郡(現在の奥州市、盛岡市の範囲)を治めた安倍頼時が南北への主要道を館の東側に通し、衣河関を構えたとき「泥を盛って関を封鎖してしまえば何人も破ることはできない」といわれたほど堅固な場所だった。
安倍氏が朝廷と対立して起きた前九年合戦(1051年〜62年)で頼時は戦死。跡を継いだ子の貞任が1062年9月の戦いで鳥海柵(金ヶ崎町西根)に撤退するまで、衣川は前九年合戦の中心舞台だった。山河に囲まれ安倍氏の拠点が構えられたこの地も、平和が訪れた今は静かに時を刻んでいる。

※柵＝城柵。7～11世紀に大和朝廷が築いた行政施設で、軍事的拠点としての役割も担った

広告



※この広報紙は再生紙と植物油を使用しています。
※この広報紙は奥州市のホームページでもご覧いただけます。【本紙1部の印刷費用は約33円です。】